

## 令和元年度蕨市歯科保健連絡調整会議 議事録

日時 令和元年7月11日(木)

午後1時30分～午後2時50分

会場 保健センター健康教育室

〈出席者〉

委員：山岡会長 杉村委員 望月委員 羽根田委員 飯野委員 関委員

事務局：石丸所長 朝倉保健指導係長 長谷川保健師 山岸保健師

〈欠席者〉

加瀬委員

### 議題

〈平成30年度 実施事業結果について〉

◆ 事務局説明：資料「平成30年度蕨市事業統計」に基づき説明

委員：節目検診の受診率が13%で低いがそれ以外の抽選による受診率が51%、能動的な方は受診率が高いことがわかるが、節目検診以外の方の人数を増やすことはできないのか。

事務局：この事業は健康増進法に基づいて実施をしており、健康増進法では40～70歳の10歳きざみが対象と規定されている。蕨市ではこの事業の宣伝の意味も含めて、抽選で100名の市民の方を募集している。内々の話になってしまうが、平成26年度から平成29年度の歯科検診の予算はそれまでの平均受診率14%を基に算出しており700人分の予算を取っていた。しかし、平成28年度、平成29年度は予算の700人を超えて受診しており、超えた分は他の予算から補填している。令和元年度は750人分の予算を確保しているが、健康増進法の対象外の方が受診するために予算を増やすことは難しい。しかし、抽選への応募が600人を超えており、抽選での受診は宣伝効果が非常に高いと捉えている。平成30年度は節目検診の受診率が13%と低くなってしまったが、今後15%、16%と受診率が高くなり、統計上一定期間の受診率の向上が証となり、実績に基づき今よりも予算を確保できるようになると財政の担当部署から言われている。節目検診の受診率を上げることに努めていきたいので、歯科医師会の皆様にもご協力をお願いいたします。

委員：妊婦歯科健診の受診率を伺いたい。

事務局：平成30年度は母子手帳の交付者数から算出すると23.2%だった。

委員：参考までにがん検診の受診率を伺いたい。

事務局：平成30年度でお答えすると、受診率が一番高い肺がん検診は46.4%、一番低い胃がん検診は6.5%。

委員：胃がん検診は、検診ではなく受診で検査をしている人が多いのかもしれない。

委員：歯科検診もすでに定期的に通院している人は市の歯科検診を受けないかもしれないが、全く歯科医院に通院していない人や急性症状など痛い時しか歯科受診しない人を歯科医院に足を向かわせるきっかけにしてほしい。恐らく多くの方が定期的に通院していないのではないかと思う。口の健康が体の健康につながることを歯科医師だけでなく、医師も認めてくれていると思う。もっと口の健康が体の健康につながることをアナウンスできればいいと思う。

委員：体の「フレイル」ということばもだいぶ広まってきたが、オーラルフレイルと体のフレイルの関係性も指摘されている。健康寿命を延ばすためにもオーラルフレイルにも目を向けてほしい。節目検診だと70歳が市の歯科検診を受ける最後の機会になってしまう。定期的に通院している人はある程度口の健康を保っている人が多く、また歯科医院に行くという社会参加もできている。70歳より上の人達にどのようにアピールするのも重要だ。先ほどの抽選で歯科検診を受ける、能動的な人を増やすことも需要だと思う。どの年齢層が抽選に応募しているのか分析をしても興味深いと思う。分析をしつつ、受診率を上げていけると良い。

委員：来てくれる患者さんには警鐘を鳴らせるが、問題は来てくれない人にどのように警鐘を鳴らすかだ。イベントや検診などで知らせるしかないと思う。

委員：広域連合が75歳の後期高齢者に口腔機能検査を含めた歯科検診を行っている。

事務局：70歳までの節目検診の受診率を上げるような策があればやっていきたい。

委員：20歳の歯科健診の受診率が下がってしまったことで考えられる原因はあるか。

事務局：受診勧奨の通知を出したり、成年式で看板を出したりして周知をしている。成年式に関わる20歳の方にそれとなく聞いてみたことがあるが、親が言えば行くという人もいた。本人だけでなくご家族にも周知することも考えていくと受診率も上がっていくのではないかと考えている。

委員：パノラマレントゲンの良いところは、親知らずの有無や状態を視覚的にわかることだ。40代、50代、60代になって親知らずがわかるよりも抜歯はできれば若いうち、特に社会人になるまでにやった方が良いと思う。治り方も違う。虫歯の発見だけでなく、親知らずのことも含めたアピールで「行ってみようかな」という気持ちになるのではないかな。

委員：一般的にパノラマレントゲンは病名がつかなければ撮らないものなので、良い機会になると思う。親知らずの生え方によっては抜く、抜かないなど、1人1人違うので関心を持ってもらえると思う。

委員：大人になって永久歯列を把握できるというのは、今後の自分の10年後、20年後の歯に対するビジョンが見えてくるきっかけになると思う。自分たちのアピールの仕方がいまひとつなのか、もっと受診率を上げていきたい。

事務局：以前、歯科医師の先生に歯科検診について広報にお願いいただいた。また広報等に出していただければ思う。

委員：中学生に授業で歯科医師が20歳の歯科健診についてアピールしてみてはどうか。20歳の歯科健診を行っている自治体はほとんどないので、積極的にアピールしてほしい。

委員：節目検診でもパノラマレントゲンを行えると良いと思う。問診、視診だと物足りなさを感じる人もいる。パノラマレントゲンを撮るとなると、予算も必要になるが。

委員：近隣だと越谷市が市の助成で口腔がん検診を行っている。口腔がん検診があると市民の口腔がんに対する意識も高まってくると思う。

委員：行政からすると、口腔がん検診等で予算がかかるが、医療費は下がるかもしれない。費用対効果を考えるとプラスになるかと思う。

委員：節目検診は10年度に1度しか受けられないことをアピールするなど、歯科検診のチラシをもっとインパクトがある文言にしてみてもどうか。

委員：今日の8020の表彰式でも元気な高齢者が増えた。抽選の歯科検診よりも80歳の歯科検診を行う

のも良いと思う。

委員：75歳で口腔機能検査をし、80歳で歯科検診ができれば健康寿命が延びるのではないか。

委員：私は節目検診以外必要ないと思う。抽選で歯科検診に応募した人がどれだけその後定期的に通院するのかわからない。調査してみても興味深いと思う。それよりも80歳の人に歯科検診をして健康寿命を延ばすことの方が重要だと思う。

委員：妊婦歯科健診を行っているが、産後の産婦検診も大切だと思う。産後の子育てで忙しい中、自分の健康に目を向けることは子どもの口腔ケアにもつながり、検診事業としても良い循環になる。

#### 〈令和元年度 歯科保健事業について〉

◆ 事務局説明：資料「令和元年度蕨市歯科保健事業予定」に基づき説明

委員：成年式の年齢は変わるのか。

事務局：蕨市は変えないと発表した。

委員：1歳6か月児健診のフッ化物塗布を希望されない方の理由は何か。

事務局：かかりつけで直近でフッ化物を塗布したので本日は見合わせるという理由が多いが、中にはフッ化物に保護者の方が抵抗感があるという理由も聞いている。

委員：フッ化物に害があるということはないが、ある一定数そのような考えがある人がいることは仕方がないと思う。自由に選択して良いと思う。フィンランドでは歯磨き粉を使って歯磨きをした後、口をすすがない。日本人は口をすすがないと気持ちが悪く考える人が多いが、すすがなければ虫歯はもっと減るのではないか。最近では大人用の歯磨き粉でフッ素濃度が高いものが市販されている。

委員：2歳児フッ化塗布事業の受診率40%というのは、受診率がもっと上がると良い。その後に定期的にフッ化物塗布を受けてもらえるよう、歯科医院も務めていく。

委員：外国人が多いという土地柄、学校等の集団でみんなで虫歯予防ができるフッ化物洗口が有効なのではないか。

委員：埼玉県でもフッ化物洗口を勧めているが、県北部は取り入れている学校が多い。年単位ではあるが成果は出ている。是非やってもらいたい事業だ。

事務局：今後も統計上の分析や広報など考えていきたいと思う。委員の皆様にもご助言をいただきながら行っていきたい。

#### 〈その他〉

特になし

午後2時50分、事務局より閉会を宣言